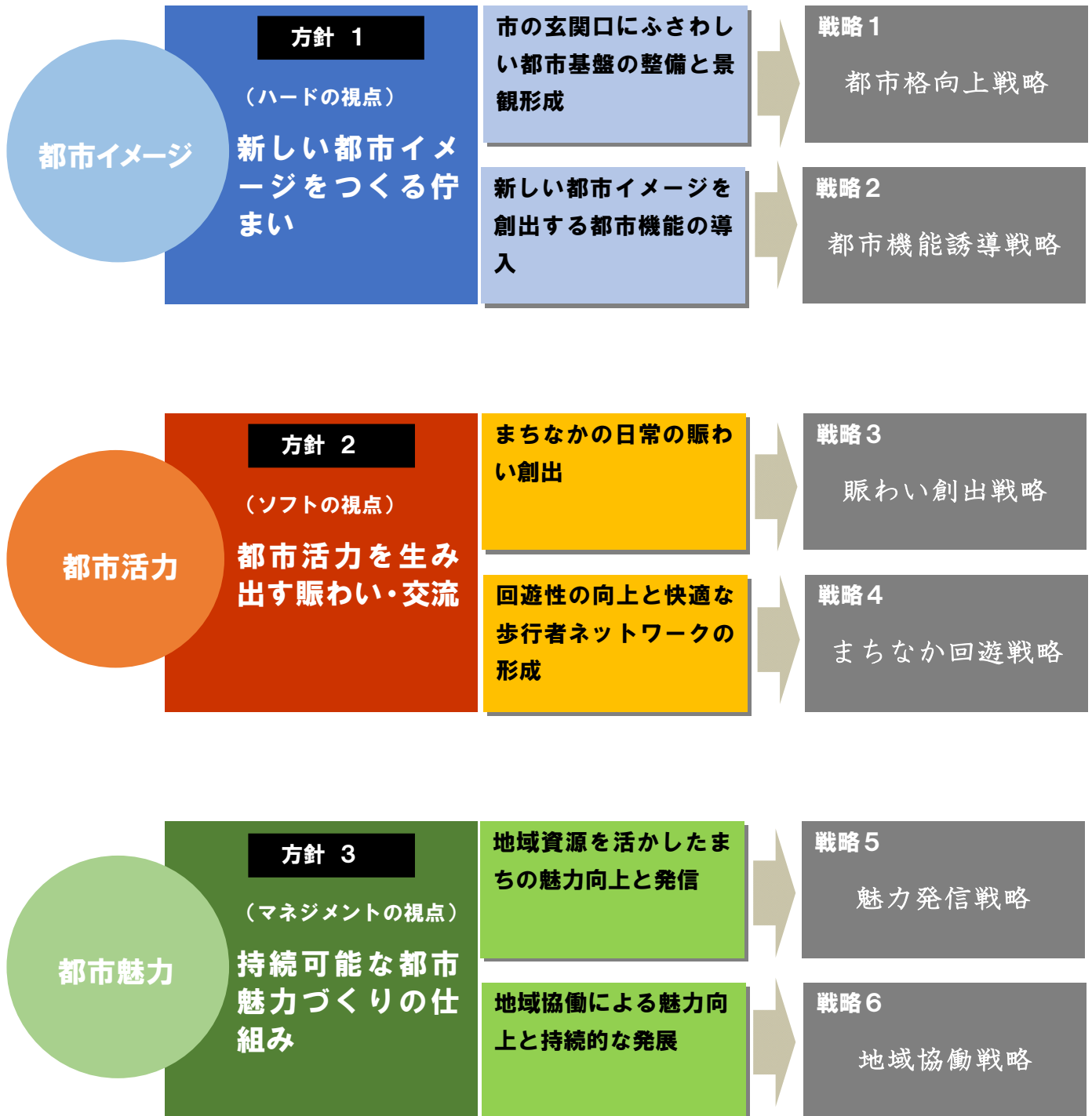


6. まちづくり戦略

5章で示す「まちづくりの方針」を実現させていくために、以下の6つの「まちづくり戦略」を設定し、具体的な取組みを展開させていきます。

次頁以降にそれぞれの戦略に基づく取組み例と方策イメージを示します。



戦略 1 都市格向上戦略

●背景とねらい

～市の玄関口にふさわしい都市基盤の整備と景観形成に向けて～

守口都市核周辺には、京阪守口市駅、地下鉄守口駅の2駅があり、交通の利便性が高いことが評価されていますが、それぞれの繋がりはありません。とくに京阪守口市駅北側で、みどりやオープンスペースなどが不足し、駅前らしさが感じられないほか、シンボルロードが未整備など、市の玄関口としての佇まいが課題となっています。

そこで、「市の玄関口にふさわしい都市基盤整備と景観形成」に向けて、駅前については、守口都市格を向上させる駅前らしい空間づくりを進め、豊秀松月線については、新しい都市イメージにふさわしいシンボルロードとしての整備を推進し、玄関口として相応しい佇まいや風格をつくることにより、市全体の「都市格」を向上させていくことを目指します。

●実現に向けた取組み

1 守口の都市格を向上させる駅前空間づくり

- ・京阪守口市駅東口
駅前ステージの活用促進に向けた整備をはじめ、日常、イベント時を含めた賑わい創出に向けた人中心の空間づくりを進めます。
- ・京阪守口市駅西口
関係機関と協議調整を進め、既存施設の更新とそれに併せた駅前ゆとり空間の創出に向けた取り組みを進めます。
- ・地下鉄守口駅
旧市役所跡地の活用と連携した守口都市核の新たな顔づくりを進めます。



玄関口としての駅前空間
(JR 博多駅)

2 新しい都市イメージにふさわしいシンボルロードの整備

- ・豊秀松月線
シンボルロードに相応しい安全で快適な歩行者空間整備と沿道とも連携した賑わいとゆとりある街路景観の形成に取り組みます。



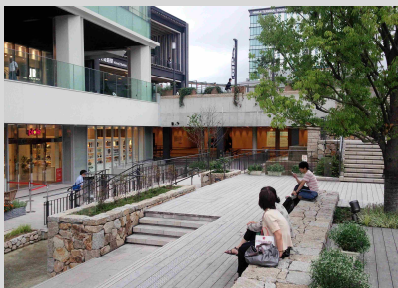
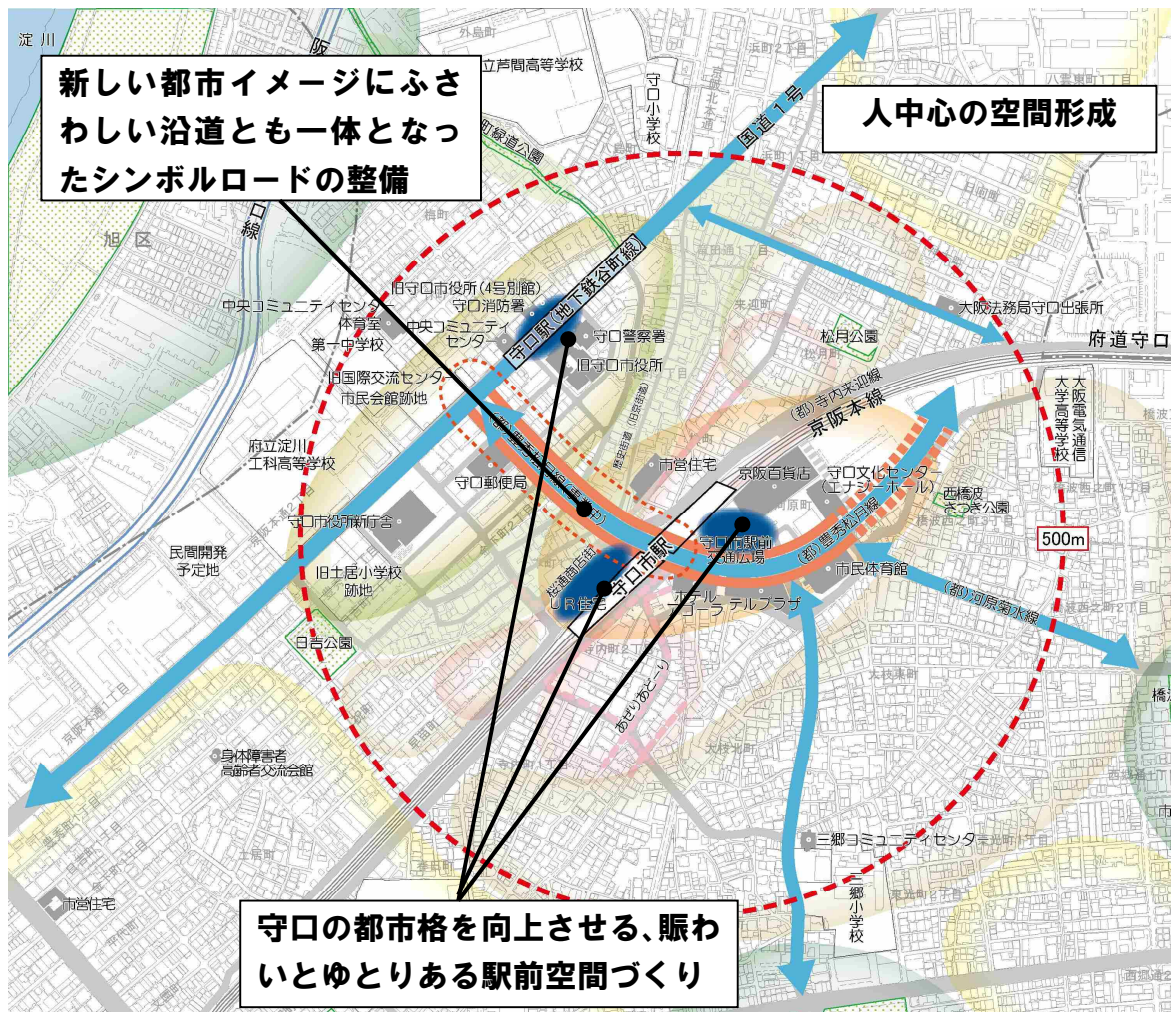
シンボルロードと快適な歩行者空間
(表参道)

3 人中心の空間形成

- ・公共交通を優先し、自動車交通の適正制御や駐輪場の再配置の検討など人中心の空間形成に向けた取り組みを進めます。

戦略イメージ

市の玄関口にふさわしい都市基盤の整備と景観形成の取り組みイメージ



戦略2 都市機能誘導戦略

●背景とねらい

～新しい都市イメージを創出する都市機能の導入に向けて～

守口都市核周辺は、「住宅のまち」としてのイメージが定着していますが、その一方では、「賑わいや活気がない」「治安が悪い」「みどりが少ない」などの“負のイメージ”があります。

そこで、「新しい都市イメージを創出する都市機能の導入」に向けて、守口の暮らしの魅力を向上させる新しいライフスタイルを創出するような魅力的な都市機能を誘導します。その際には、公共施設跡地等を積極的に活用するとともに、民間活力を導入し様々な視点を組み入れつつ、また、単一敷地だけではなく、周辺と一体となった整備の可能性も検討し、その土地のポテンシャルを最大限に活かした魅力溢れる都市機能の導入を進めます。

●実現に向けた取組み

1 多様で魅力的な都市機能の適切な誘導

- ・都市型ライフスタイルを体感でき、守口市に住むことの付加価値を高めるにあたり必要な、居住機能や生活サービス機能に加え、都市生活に活力と潤いを与えるような機能も含め、立地適正化計画とも連動しながら、多様な魅力機能の誘導を図ります。

2 跡地を含む公的資源を積極的に活用した都市機能誘導

- ・新都市生活創出ゾーンや賑わい交流ゾーンをはじめ、守口都市核周辺には、公共施設跡地や更新時期が迫る多数の公益施設が存在することから、公共施設等総合管理計画とも連動しながら、それらの公的資源を積極的に活用して都市機能を誘導します。

3 民間活力導入を含む多様な事業手法の検討

- ・事業手法については、民間活力導入（PPP等）を念頭に、公有地活用方策（売却・定期借地等）についても、幅広く検討するとともに、また、周辺敷地と一体となった面整備や公共施設の玉突き整備等の可能性も含めて、土地のポテンシャルを最大限に活用できるような事業手法を検討します。



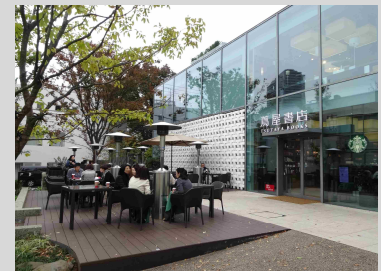
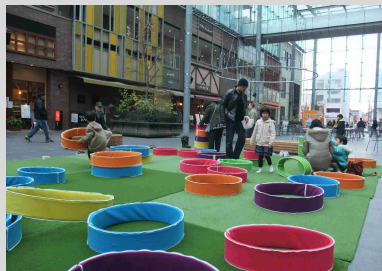
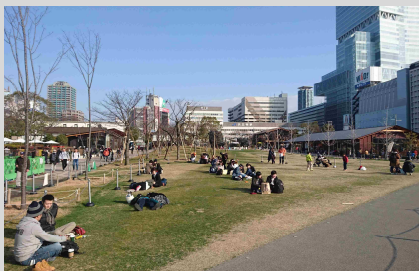
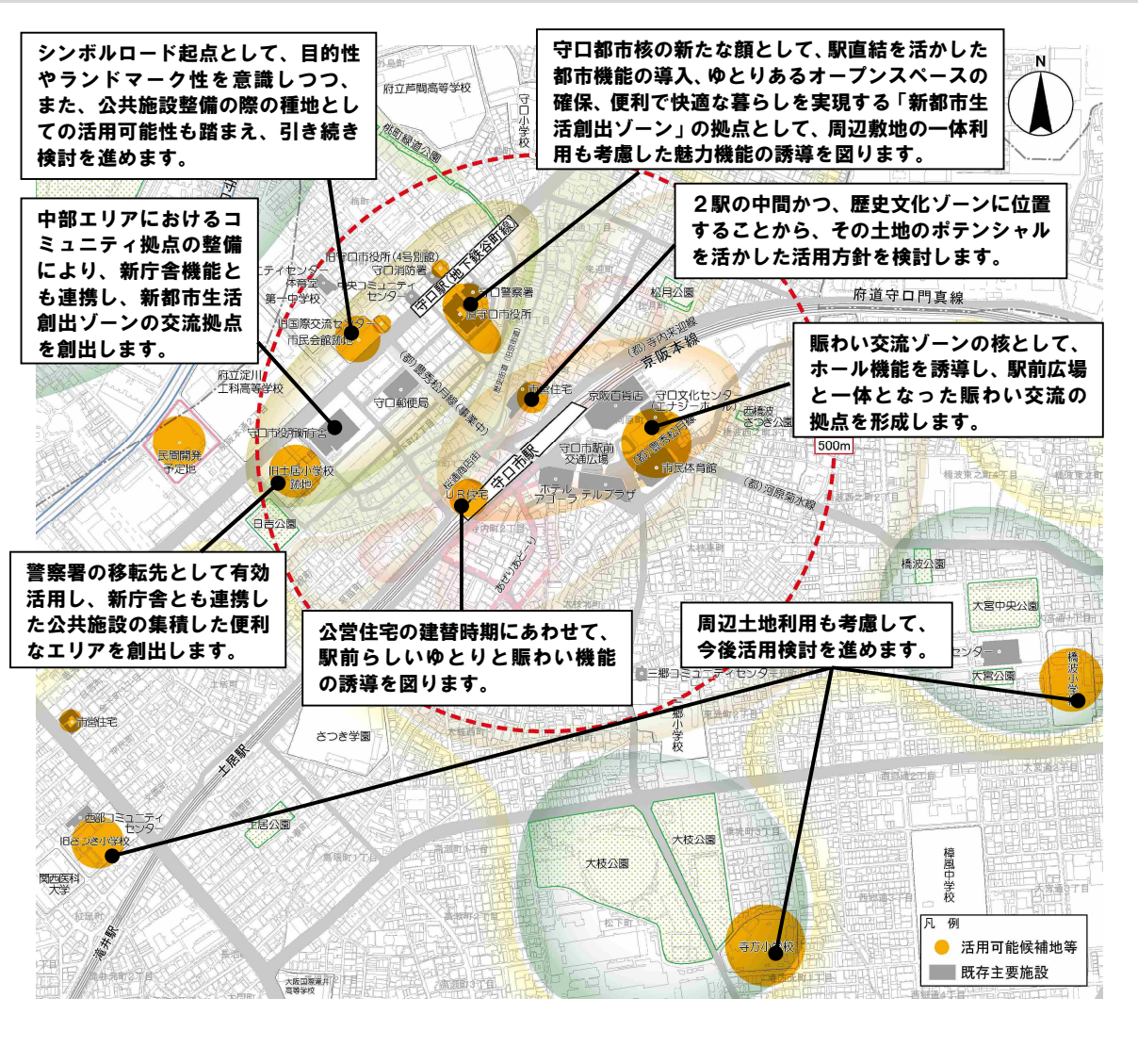
多様な都市機能を導入した再開発
(高松市)



広場に面したカフェレストラン
(虎ノ門ヒルズ)

戦略イメージ

新しい都市イメージを創出する都市機能の導入に向けた取り組みイメージ



戦略3 賑わい創出戦略

●背景とねらい

～まちなかの日常の賑わい創出に向けて～

守口都市核周辺は、「賑わいや活気がない」というイメージがあり、時間をつぶせる場所や、まちなかに人が集まったり活動をしったりできる場所が少ない状況です。また、守口市駅前広場については、イベント開催時には多数の人で賑わっていますが、普段は人が少なく駅前らしい賑わいを感じられず、駅前のオープンスペースを十分に活用できていません。

そこで、「まちなかの日常の賑わい創出」に向けて、まちなかの隙間（多孔質空間）の活用や、守口市駅前広場の日常時も含めた利活用の促進等を進めることで、日常の賑わい創出し、界隈性があり、親しみやすい“ヒューマンスケール”の賑わい・交流のまちづくりを目指します。

●実現に向けた取組み

1 多孔質空間を活用した賑わい創出

- ・新たな施設や機能の導入が行われる際は、敷地内に一定のオープンスペースを確保するよう誘導するほか、民有地を含めた既存の空き地や駐車場、店舗の店先などの空間（多孔質空間）についても、まちなかの賑わい交流スポットの候補地として、その活用促進に向けた仕組みづくりを進めます。



カナディアンスクウェアでのイベント

2 守口市駅前広場の日常時の利活用促進

- ・普段から人が集い、憩えるように、緑陰の創出やオープンカフェの実施、日常的イベントの開催等も検討し、駅前にいけば、いつもなにかやっているというイメージがわくような取り組みを進めます。

3 空き家等を活用した地域密着型店舗等の導入推進

- ・昨今、古民家等を活用した魅力的な店舗が増えてきていることもあり、それらをより一層促進するほか、既存建物（空きビル、空店舗）の活用したチャレンジショップの導入などに向けた取り組みを進めます。

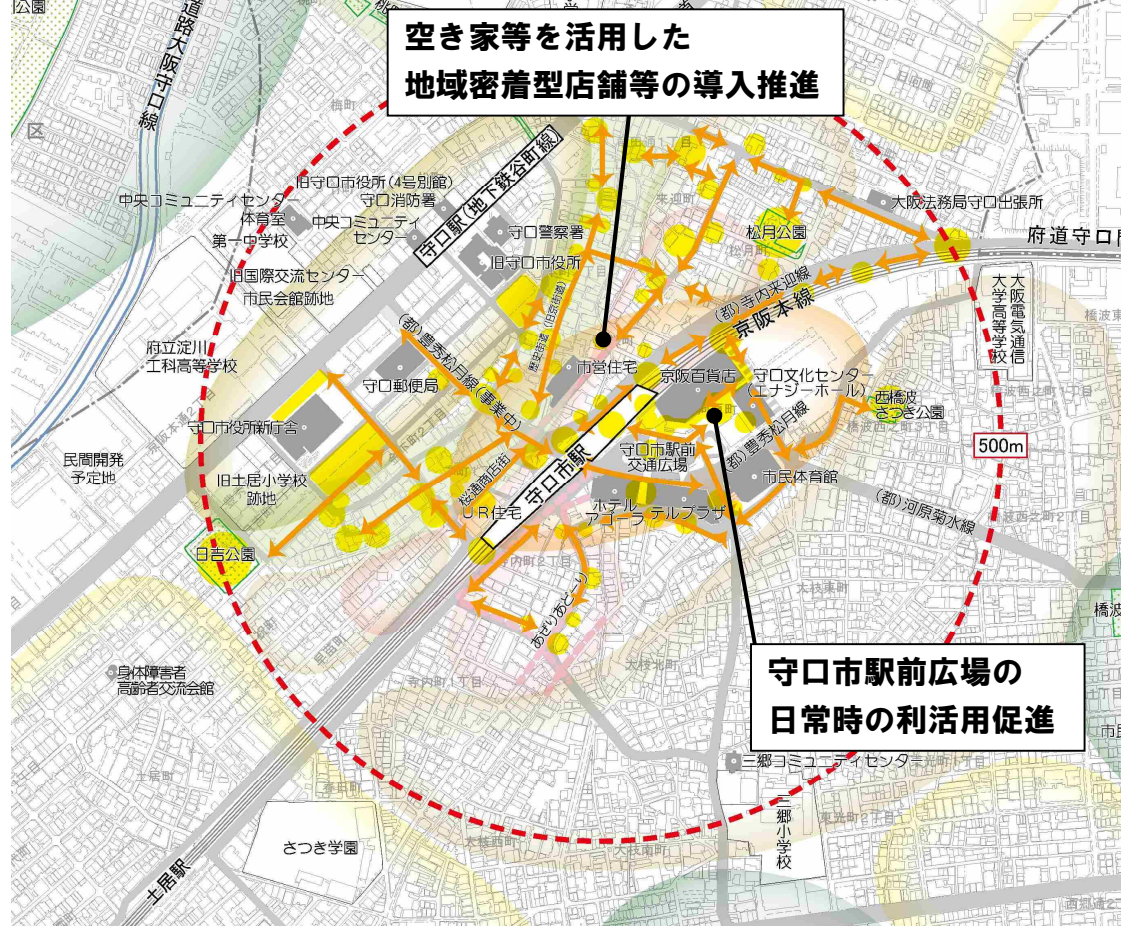


空きビルを活用した
チャレンジショップ
(周南市)

戦略イメージ

まちなかの日常の賑わい創出に向けた取り組みイメージ

● 多孔質空間を活用した賑わい創出 ※多孔質空間とは：ここでは、広場、空閑地や建物の軒下などの空間をいい、イベントなどに活用できる空間をいいます。



戦略4 まちなか回遊戦略

●背景とねらい

～回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成に向けて～

守口都市核周辺では、国道1号や京阪本線は都市の骨格軸、文祿堤は地域固有の資源である一方で、その構造上の特性から空間を分断している状況があります。また、守口都市核周辺には公共施設等が多数立地しており、様々な方が利用していますが、それら施設間をつなぐ要素が少なく、まち全体として回遊性が乏しくなっています。

そこで、「回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成」に向けて、歩道やまちかどに人が憩えて溜まれる空間をつくったり、高低差を逆手に利用し魅力空間を創出したり、低層部への店舗誘導等によるまちなみの連続化や、サイン整備にも併せて取り組むことで、自然と歩きたくなる楽しい歩行者空間をつくり、それを周辺部にも拡げていきます。

●実現に向けた取組み

1 歩いて楽しい快適な歩行者空間の形成

- ・多孔質空間の活用と連携しつつ、歩道やまちかどに、人が憩える空間や溜まれる空間を創出し、また、その空間を活用するための仕組みづくりを進めます。
- ・文祿堤の高低差を活かし、既存の坂道の整備活用や、高さを活かした視点場の整備などを進めます。
- ・歩行者優先道路化を視野に入れた社会実験の実施等、快適な歩行者空間の形成と活用促進を進めます。



歩道を活用したオープンカフェ
(那覇市国際通り)

2 建物低層部への店舗等の誘導によるまちなみの連続化

- ・公開空地による歩行者空間を確保や、建物低層部へ、カフェや物販をはじめとする賑わい、憩い、交流機能等を積極的に誘導するような景観計画や地区計画等のルールづくりを行います。



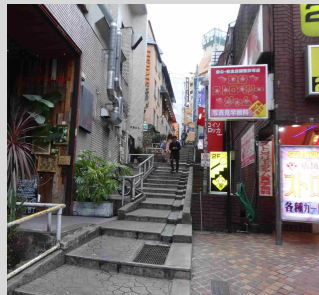
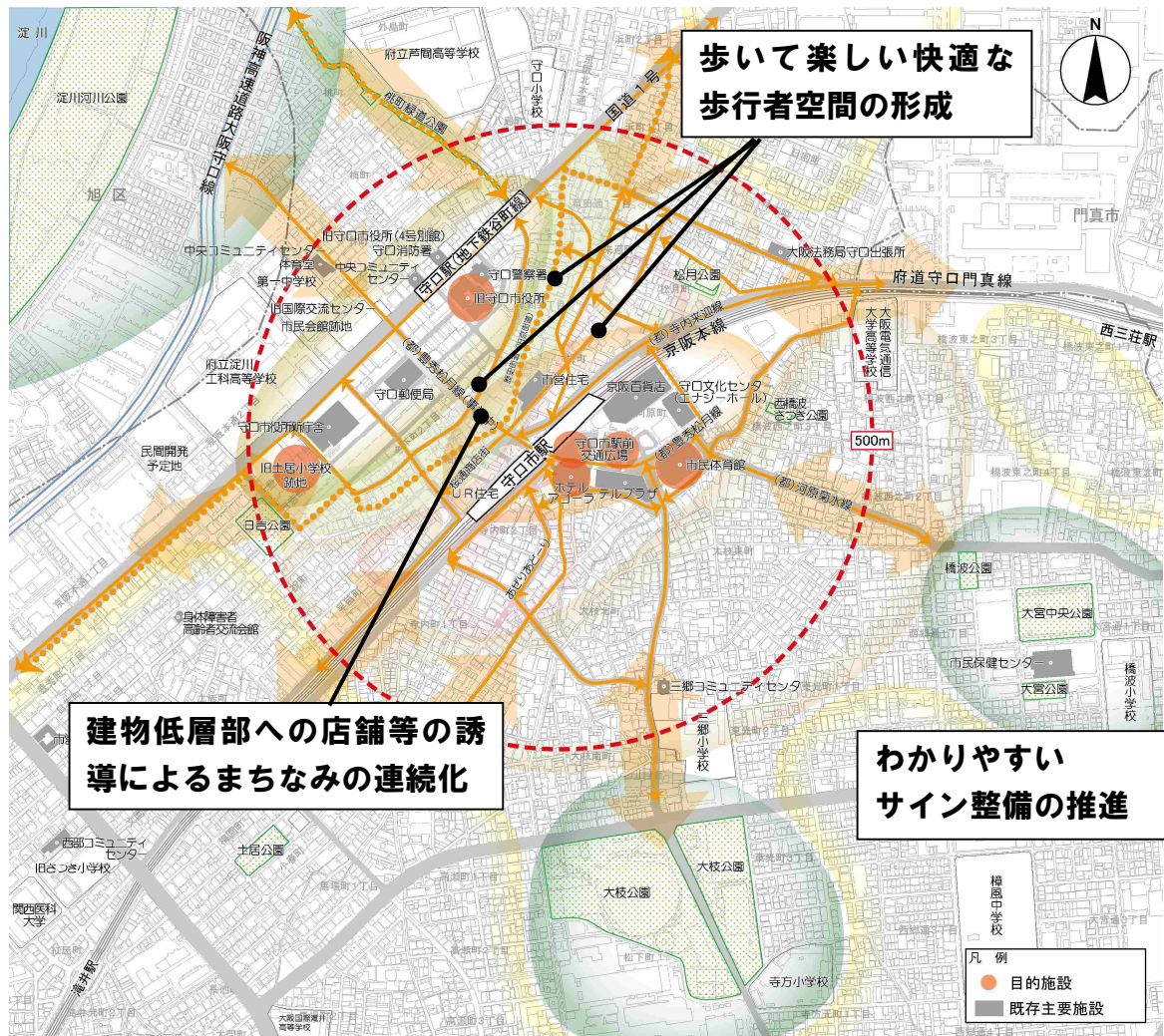
歩行者優先道路化に向けた
交通社会実験
(周南市銀座通)

3 わかりやすいサイン整備の推進

- ・都市核周辺のゾーンも含め、様々な施設をつなぎ、まちを初めて訪れたひとでも自然と回遊できるような効果的なサイン整備を進めます。

戦略イメージ

回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成に向けた取り組みイメージ



戦略5 魅力発信戦略

●背景とねらい

～地域資源を活かしたまちの魅力向上と発信に向けて～

守口都市核周辺には、「文禄堤」や「淀川河川公園」など、守口の個性を高めるような貴重な資源が多く存在しておりますが、案内や情報発信が少ないほか、これらの資源を体験する場が少ないなど、その整備活用が十分でないことから、住む人来る人ともに、それが魅力的なものであることを、十分認識できていない状況にあります。

そこで、「地域資源を活かしたまちの魅力向上と発信」に向けて、「文禄堤」や「淀川河川公園」については、資源を認識しやすいような整備を推進し、また、その魅力を体験しやすいような活用を促進することで、まちの魅力向上を図るとともに、加えて、地域と連携して、様々なツールを活用し、魅力発信を促進します。

●実現に向けた取組み

1 歴史的資源である「文禄堤」の整備活用の促進

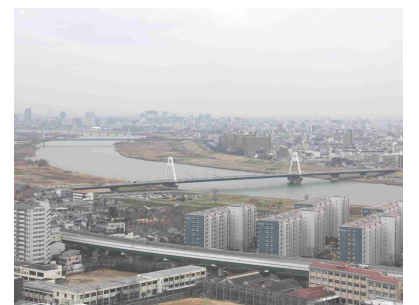
- ・地域と各種団体、行政が価値認識を共有した上で、文禄堤を魅力資源として認識しやすいように必要な整備を行います。
- ・まち歩きはじめとした体験型の活動を促進し、また、沿道にカフェなど魅力店舗等を誘導するなど、楽しく資源に触れる機会を増やすことで、住む人が愛着を感じ、来る人が魅力を体感できるような取組みを進めます。



文禄堤(旧京街道)沿いの店舗

2 うるおい資源である「淀川河川公園」の利活用促進

- ・散歩や休日のレクリエーション活動の際、淀川までわかりやすくアクセスできるようなルートを整備するとともに、淀川の利用者が逆に都市核へ寄って帰りたいと思うような機能を誘導するなど、都市核と淀川河川公園の関係性強化を図ります。



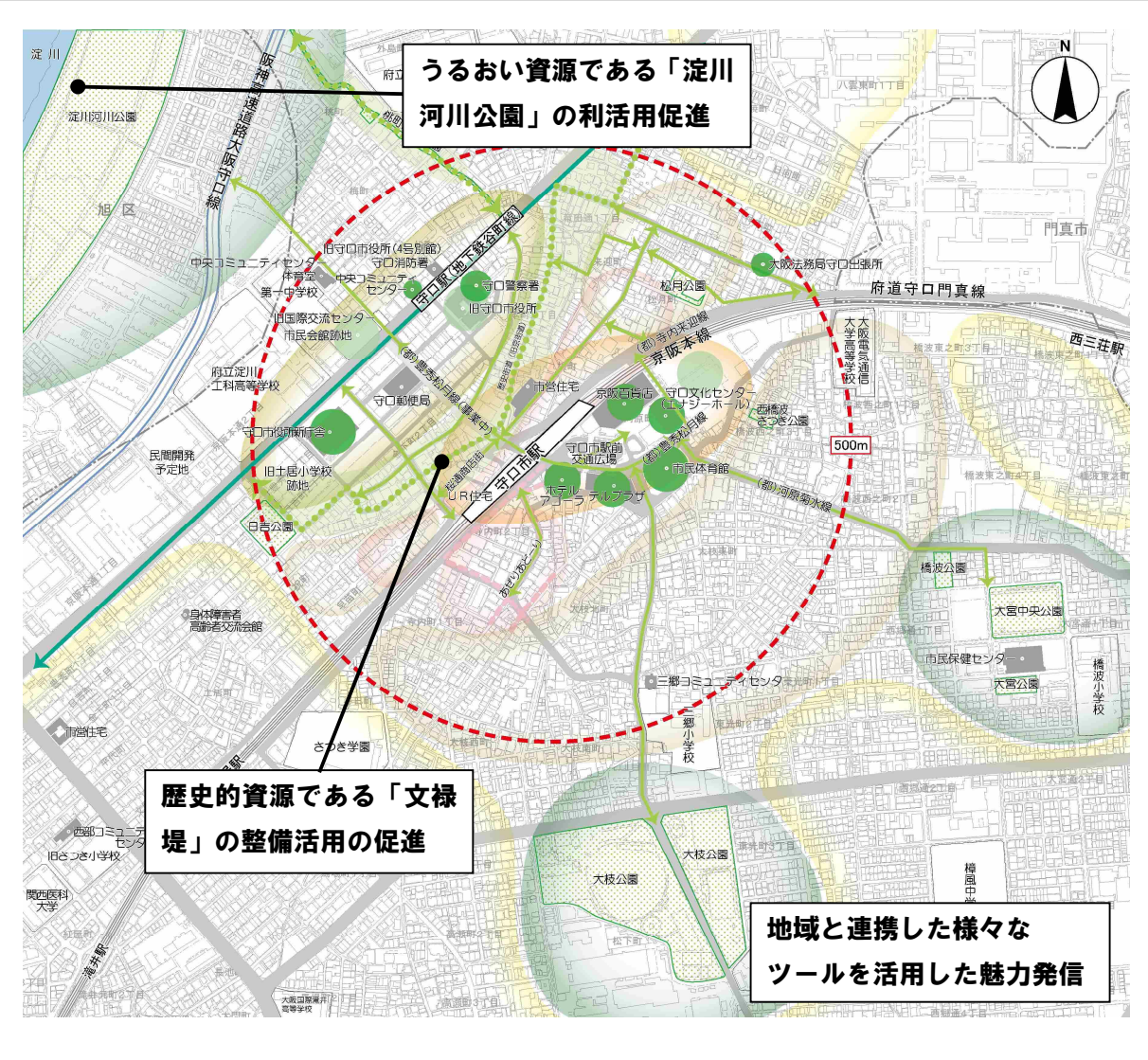
淀川

3 地域と連携した様々なツールを活用した魅力発信

- ・地域資源を積極的に活用した官民協働イベントの実施や情報発信（案内マップやその他ウェブ、SNS などの情報ツールを活用など）などを推進します。

戦略イメージ

地域資源を活かしたまちの魅力の向上と発信に向けた取り組みイメージ



戦略6 地域協働戦略

●背景とねらい

～地域協働による魅力向上と持続的な発展に向けて～

守口都市核周辺においては、駅前活性化委員会など企業や事業者を主体とした組織やイベント開催に関する各種団体が、多様な活動を行っています。今後は、これら既存組織に加え、都市核周辺の様々な関係者、地域、事業者、行政などが一緒になって、連携協力し、地域の魅力向上のための活動を行うことが必要です。

「地域協働による魅力向上と持続的な発展」に向けて、まず、「地域、事業者、行政」など各主体が課題認識の共有を行い、次に、課題に対応するルールづくりを進め、併せて、ルールに基づき、各主体が各々の役割を認識し、地域の魅力向上や持続的な発展に向けた各種活動を進める、エリアマネジメント型のまちづくりを目指します。

●実現に向けた取組み

1 地域の課題認識の共有に向けた場の創出

- まず、各主体が集まり、まち歩きをしたり意見交換を行ったりすることで、地域の課題認識の共有に向けた場をつくる必要があります。そのきっかけを作るために関係機関等への働きかけを進めていきます。

2 地域の課題解決や魅力向上に向けたルールづくり

- 課題認識を共有したのちは、各主体が一緒になって、景観に関するルールづくりやガイドラインづくり、公共空間の維持管理のためのルール作り等を行えるよう、その関係性の構築を進めるとともに、ルール作りに関する手法等について検討を進めます。

3 エリアマネジメント組織の形成

- ルールづくりと併せて、沿道や広場の維持管理や緑化の推進など、様々なテーマについて地域で検討する「エリアマネジメント組織」の形成に向けた取組みを進めます。
- また、鉄道事業者や地元企業など、地域に密着した事業者との連携を図り、各種取組みを進めるための働きかけを行います。



地域が主体となった緑化推進



地域が主体となった清掃活動

戦略イメージ

地域協働による魅力向上と持続的な発展に向けたエリアマネジメント組織の例

